

令和4年度（2022年度）公社等経営評価書

公益財団法人21あおり産業総合支援センター

公益法人等用

1 法人の概要

基準年月日
(基本情報に係る基準日) 令和4年7月1日

法人名	公益財団法人21あおり産業総合支援センター	所管部課名	商工労働部地域産業課
代表者職氏名	(職名) 理事長 (氏名) 今 喜典	設立年月日	昭和44年5月26日
所在地	〒 030-0801 青森市新町二丁目4番1号 青森県共同ビル7階	電話番号	017-777-4066
HPアドレス	https://www.21aomori.or.jp	FAX番号	017-721-2514
e-mailアドレス	soudan@21aomori.or.jp		

資本金・基本金等

資本金・基本金等	549,756 千円
(うち県の出資等額)	390,000 千円
(県の出資等比率)	70.9 %

設立の目的・事業の目的

青森県内の中小企業者等に対し、研究開発から事業化、更には販路開拓までの一貫した支援を行い、企業の振興及び新たな産業の育成並びに新事業の創出の促進を図り、もって本県産業の活性化と活力のある地域づくりに寄与することを目的とする。

主な出資者等の構成（出資等比率順位順）

氏名・名称	金額（千円）	出資等比率（%）
1 青森県	390,000	70.9
2 みちのく銀行	34,010	6.2
3 青森銀行	33,690	6.1
4 青森市	30,245	5.5
5 東北電力	11,710	2.1
6 黒石市	7,220	1.3
7 藤崎町	5,090	0.9
8 青い森信用金庫	3,583	0.7
9 田舎館村	2,445	0.4
10 みずほ銀行	2,070	0.4

経営目標

- 中小企業者等への総合的支援
ワンストップサービスによる相談対応、関係機関と連携した一貫支援等により県内企業の育成・活性化を推進する。
- 設備投資支援
設備貸与事業等の設備投資支援事業を適切に実施し、県内企業の事業活動の促進を図る。
- 下請企業振興
発注開拓等により県内企業の取引拡大を図る。
- 中小企業再生支援
個々の企業の特性に応じた再生支援を行うことにより県内企業の活力の再生を図る。

主要事業の概要

主要事業	決算額（千円、%）						公益・収益等の別	補助金の有無	受託収入の有無	再委託の有無
	令和元年度 (2019)	割合	令和2年度 (2020)	割合	令和3年度 (2021)	割合				
事業1 産業総合支援事業 (内容) 企業が抱える各種相談対応、専門家派遣、受発注取引推進、創業・起業に対する支援	140,608	25.94 %	122,018	21.76 %	109,064	19.67 %	公益	有	有	有
事業2 産業復興相談センター事業 (内容) 事業者の再生に向けた相談対応や再生計画策定支援	150,297	27.73 %	183,278	32.68 %	200,997	36.25 %	公益	無	有	有
事業3 地域技術事業化支援事業 (内容) 新事業や新産業の創出を図るための地域技術を利用した事業化に向けた取り組みに対する支援	39,314	7.25 %	76,228	13.59 %	75,573	13.63 %	公益	有	有	有
上記以外	211,813	39.08 %	179,337	31.98 %	168,905	30.46 %				
全事業	542,032	100.00 %	560,861	100.00 %	554,539	100.00 %				

組織の状況

区分	令和2年度 (2020)		令和3年度 (2021)		令和4年度 (2022)		前年度 増減	増減理由
	県派遣	県OB	県派遣	県OB	県派遣	県OB		
役員	常勤	2	1	2	1	2	1	
	非常勤	11	2	11	2	11	2	
	計	13	3	13	3	13	3	
職員	常勤	29	6	28	6	27	6	▲ 1 国受託事業のスキーム変更に伴う事務員1名減員
	非常勤							
	臨時職員							
計	29	6	28	6	27	6	▲ 1	

役員平均年齢	68 歳
役員平均年収	6,805 千円

職員平均年齢	40 歳	職員の 年代別構成	20代	30代	40代	50代	60代～	勤続年数（平均）
職員平均年収	6,666 千円		4人	7人	1人	7人	14年	

※常勤役員のみ

※常勤職員のみ（ただし、職員平均年収及び勤続年数はプロパー職員分）

2 財務の状況

(単位：千円)

項目	令和元年度 (2019)	令和2年度 (2020)	令和3年度 (2021)	前年度増減	主な増減理由〔法人記入〕	
収支等の状況	経常収益	537,546	651,073	561,424	▲ 89,649	
	経常費用	542,032	560,861	554,533	▲ 6,328	
	当期経常増減額	▲ 4,486	90,212	6,891	▲ 83,321	令和2年度のクリスタルバレイ関連産業振興基金返還等に伴う指定正味財産から一般正味財産への振替による受取補助金等振替額が多額だったため。
	当期経常外増減額		▲ 109,985		109,985	令和2年度のクリスタルバレイ関連産業振興基金返還に伴う経常外費用による当期経常外増減額のマイナスに対し、令和3年度は計上がなかったため。
	当期一般正味財産増減額	▲ 4,486	▲ 19,773	6,891	26,664	一括償却資産の調達により一般正味財産が増加したため。
	一般正味財産期末残高	855,424	835,651	842,542	6,891	
	借入金残高	3,493,934	3,362,574	3,129,242	▲ 233,332	
資産	資産	5,569,500	5,494,879	5,247,140	▲ 247,739	
	負債	3,681,722	3,548,937	3,301,660	▲ 247,277	
	正味財産	1,887,778	1,945,942	1,945,480	▲ 462	
県費等の受入状況	補助金	167,371	376,545	205,645	▲ 170,900	令和2年度の新事業展開等促進基金造成や新型コロナ対応に係る補助金が多額だったため。
	事業費	55,811	268,429	44,640	▲ 223,789	同上
	運営費（人件費含む）	111,560	108,116	161,005	52,889	高度情報システム構築事業に係る補助金受入れによって増額したため。
	受託事業収入	43,703	24,403	26,988	2,585	
	負担金					
	交付金					
	貸付金					
	無利子借入金による利息軽減額 (長期プライムレートによる試算額)	33,347	33,961	31,605	▲ 2,356	
	減免額（土地・施設等使用料等）					
	債務保証残高					
損失補償残高	6,704					

(単位：%)

財務分析指標	令和元年度 (2019)	令和2年度 (2020)	令和3年度 (2021)	前年度増減	主な増減理由〔法人記入〕	
財務構造	正味財産比率	33.89	35.41	37.08	1.66	
	経常比率	99.17	116.08	101.24	▲ 14.84	
	総資産当期経常増減率	▲ 0.08	1.64	0.13	▲ 1.51	令和2年度はクリスタルバレイ関連産業振興基金返還に伴う指定正味財産から一般正味財産への振替による多額の受取補助金等振替額があり、令和3年度に比して当期経常増減額の増額が大きかったため。
	県財政関与率	45.47	66.80	47.07	▲ 19.73	同上
	補助金収入率	32.30	58.39	40.18	▲ 18.22	令和2年度の新事業展開等促進基金造成や新型コロナ対応に係る補助金が多額だったため。
	受託等収入率	47.55	42.19	51.52	9.33	コロナ対策を主な内容とする中小企業再生支援協議会事業が大幅に増額となったため。
効率性	管理費比率	11.17	12.62	20.66	8.04	高度情報システム構築事業（単年度事業）の実施により管理費が増大したため。
	人件費比率	28.21	24.02	23.73	▲ 0.29	
財務健全性	流動比率	850.63	773.73	747.47	▲ 26.26	
	借入金比率	62.73	61.19	59.64	▲ 1.56	

3 経営評価結果等への対応状況

これまでの経営評価結果等 (改善事項等)	対応状況 〔法人記入〕	左に係る県所管部局の意見・評価 〔県所管部局記入〕
会員増加に向けた取組や新たな自主事業の検討など、経営基盤の安定化に向けた取組状況について	令和3年度末の賛助会員数は100社であり、令和2年度末が95社であるが、継続会員はもとより未加入の事業者へ募集するなど会員増加に向けた取組をすることにより、更なる経営基盤の安定化を図っている。	コロナ禍にあっても会費収入を昨年度より増加させるなど、経営基盤の安定化に向けて取り組んでおり、県としても積極的に支援していく。
県派遣職員の引き揚げとプロパー職員の育成に係る取組状況について	今年度の常勤職員数は、令和3年度同様プロパー職員13名、県派遣職員6名であるが、県派遣職員の引き揚げについては、センターの業務量に鑑みながら対応していくこととする。 また、プロパー職員の育成については、青森県自治研修所で行われる研修の他、(公財)全国中小企業振興機関協会等が主催する各種研修へ参加している。	県派遣職員の引き揚げについては、中期経営計画どおりに進めているが、コロナ禍において企業支援業務が増大する中、現状の人員で対応している状況にある。 また、プロパー職員の育成については、外部機関の研修を活用するなどしており、同センターの機能が低下しないよう県としても積極的に支援していく。
県内中小企業者等への支援体制や情報発信の充実など、本県産業の活性化と活力ある地域づくりへの貢献に向けた取組状況について	平成30年度に創設した連携推進室を中心に、内部の連携に留まらず、国、県、市町村、商工団体、金融機関、大学等との連携を進め、支援体制の充実に努めている。 コロナ禍の厳しい経済環境の中で、より企業支援の機会を広げるよう支援環境の充実に努めた。具体的には、面談のみではなくオンラインでも相談対応できる他、WEBを活用した情報システムの構築等により支援業務の円滑化を図るため、ハードとソフトの両面を整備した。 この他、女性経営者への周知や当センターの利用拡大につながるよう女性専門家を積極的に登用し、女性経営者にとってより一層相談しやすい環境整備と情報発信を行った。	長引くコロナ禍の影響により厳しい経営環境を迎えている県内中小企業を支援するため、よろず支援拠点を通じた本県産業の活性化に取り組んでいるほか、より効果的な支援体制を構築するため、青森県事業引継ぎ支援センターと青森県事業承継ネットワーク事務局を統合した「青森県事業承継・引継ぎ支援センター」を設置するなど、県内中小企業の中核的な支援機関として国や県と緊密に連携しながら支援体制の充実に取り組んでいる。 また、支援機関、金融機関及び大学等と連携した企業支援に取り組むとともに、新たな相談者の掘り起しや、海外も含めた販路開拓・取引拡大支援を積極的に行うなど、本県産業の活性化等に向けて取り組んでいる。

4 経営評価指標

(1) 法人自己評価

評価項目	対象指標 評点数	法人評価		(参考)	自己評価〔法人記入〕 (経営概況、経営上の課題・対策、得点率の増減理由等)
		評点数	得点率	前年度得点率	
目的適合性	16	16	100.00	100.00	設立当初より、青森県内の中小企業者等に対し、研究開発から事業化、更には販路開拓までの一貫した支援を行い、企業の振興及び新たな産業の育成並びに新事業の創出の促進を図り、もって本県産業の活性化と活力のある地域づくりに寄与することを目的として各種事業を実施している。 また、県内唯一である中小企業支援法に基づく指定法人、新事業活動促進法に基づき認定を受けた中核的支援機関等として法令で位置づけられている。
計画性	31	31	100.00	100.00	平成30年12月に策定した中期経営計画に基づき運営をしているが、突発的な環境変化等が生じた場合は、必要に応じて計画の修正・見直しを行うこととしている。 また、計画と実績に差異がある場合は、必要に応じて分析し計画の見直しをしている。
組織運営の健全性	40	35	87.50	87.50	定期的な内部検査実施の他、会計監査人による定期的な外部監査の実施により、より一層の内部統制の強化に努めている。 また、事業活動等は、ホームページで積極的に公開し、広くPRをしている。 さらに、事務事業所管の見直しや必要に応じたプロジェクトチームの立上げ、計画的なプロパー職員の採用や、プロパー職員の資質向上を目的とした研修等への参加により、人材育成や組織の活性化を図っている。
経営の効率性	27	22	81.48	85.19	人件費については、青森県給与規程に準拠し、経営努力として独自に職員の人件費カットを行っている。 また、平成30年度より賛助会費制度を導入し、収入の確保等に努めている。
財務状況の健全性	21	13	61.90	63.64	センターの自主事業である設備・機械類貸与事業では、適切な債権管理により滞留債権が年々減少し、併せて経費節減も行っている。 また、賛助会員数は、コロナ禍の厳しい経済状況下、既存会員が減少する一方で、新規会員が増加する効果的な施策を講じた。
合計	135	117	86.67	87.50	

(2) 県所管部局評価

評価項目	項目別評価		コメント〔県所管部局記入〕
目的適合性	◎	対応等は良好	中小企業等の中核的な支援機関として、県内支援機関によるプラットフォームにおいて中心的な役割を担っている。 創業から販路開拓まで県内企業等の様々なニーズに対しワンストップで一貫した支援を行う体制が構築されており、国や県の施策の実施機関としても重要な役割を担っている。
計画性	◎	対応等は良好	中期経営計画の策定（見直し）にあたり毎年県と協議する等、これまで連携しながら取り組んでいる。引き続きPDCAサイクルを踏まえた計画的な運営のために連携していく。
組織運営の健全性	◎	対応等は良好	組織運営は基本的に県の仕組みに準拠した体制が構築されており、職員の能力向上等に積極的に取り組んでいる。 県派遣職員は、前年度と同数であるが、同センターの自立化に向けて計画的に引き揚げを進めており、さらに自主財源確保の一環として賛助会員制（会費徴収）を導入し、自立的、健全な組織運営体制の構築に向けて取り組んでいる。
経営の効率性	◎	対応等は良好	人件費等の固定費の圧縮に継続して取り組んでいるとともに、自主財源確保の一環として賛助会員制（会費徴収）を導入し、収入確保等に努め、経営基盤の安定化に取り組んでいる。
財務状況の健全性	○	概ね対応等は良好	県内企業の中核的な支援機関として、国や県の施策の実施機関としての役割を担っていることから、それぞれの事業スキームに対応して補助金、受託料、貸付金を受け入れる割合が高く、国や県の予算措置の変動に影響を受けやすい。

5 総合評価

総合評価	コメント〔県所管部局記入〕（改善事項等）
B 改善の余地あり	財務の状況については、当期経常増減額がプラスであり、借上金残高が計画的に減少していることから、経営基盤は安定しているものと評価できる。 賛助会員制（会費徴収）を導入し自主財源確保のための取組を進めていることは評価できるものの、職員の人件費等に充当される経営支援的な補助金に支えられている面もあることから、補助金に依存する状況からの脱却を目指して、会員増加に向けた取組や新たな自主事業の検討など、更なる経営基盤の安定化に向けた取組を実施していく必要がある。 今後とも、自律的な法人運営の確立を促進する観点から、計画的な県派遣職員の引き揚げとプロパー職員の育成を進めるとともに、関係機関と連携を図りながら、中期経営計画の目標達成に向け、県内中小企業者等への支援体制や情報発信の充実、県内中小企業者等の人材育成などにより、本県産業の活性化と活力ある地域づくりに貢献していくことを期待する。 上記のとおり、経営上の課題が残されており、引き続き今後の改善が望まれることから、B評価とした。